

第12回 釜石市新市庁舎建設検討委員会議事録

日 時 令和4年4月27日（木）15時00分から16時20分

場 所 釜石市役所第4庁舎 新市庁舎建設推進室

議 題 （1）岩手県公表の最大クラスの最大津波の津波浸水想定について
（2）今後の進め方について
（3）その他

出 席 者 《委 員》

石垣委員、柏木委員、柏館委員、菊池委員、佐久間委員、佐々木（光）委員、
佐々木（耕）委員、澤田（龍）委員、澤田（政）委員、柴田委員、畠委員、矢浦委員、
山崎委員

《事務局》

野田市長、晴山副市長、佐々木総務企画部長、佐々木危機管理監、川崎防災危機管理課長、
藤井室長、洞補佐、昆主事

欠 席 者 《委 員》

川崎委員、橋内委員

《アドバイザー》

南 正昭 岩手大学理工学部教授

協 議 結 果 今回の委員会は前年度末に岩手県より公表された最大クラスの津波浸水想定とその対応等に係る今後の進め方についての説明と情報共有を行い、委員からは、新市庁舎はどの程度浸水するのか、今後どのように対応、判断していくのか、様々な災害の想定がされている中で、安全な場所に機能的な庁舎を建てる必要があるのではないかなどの質問意見があったが、今回は情報共有の場であり現在、県に詳細なデータを要求していることから、準備が整い次第、早急に次回委員会を開催することとした。

市 長 挨 拶 震災から11年が経過しハード整備は、ほぼ完成をしている状況ですが、1ヶ所、避難階段を造らなければなりませんので、そこが終われば、復興事業はすべて終了ということになります。しかし、遺族の皆様、被災された皆様の心の復興というのは、まだまだ復興というものが実感できない方々が沢山おられますので引き続き、市としても応援させていただきたいと思っております。

市役所については復興事業ではございませんが、この市街地の復興計画の一つの大きな要素として計画させていただいたところです。この市役所をいつ、どうやって、どこに建

てるかということについて議論を深めさせてさせていただき、この新市庁舎建設検討委員会にはその中核として、様々な意見を取りまとめていただきながら、旧釜石小学校跡地が良いのではないかというご提言をいただきまして、それに基づき粛々と設計、或いは入札方法等、計画をさせていただいたところです。

ところが、令和2年度に国が切迫性のある地震津波の新たなシミュレーションを公表し、釜石地区の中心市街地におきましては、防波堤等が壊れた場合、中妻町の方まで浸水すると想定され、今の天神町に建てる場合には「嵩上げの方が良いのではないか」というところまで議論を進めさせていただいたところでしたが、今度は県が今まで三陸沿岸を襲った津波の中で、一番高い津波で最悪の場合のシミュレーションを実施するということになり、この3月末に県の方から公表となりました。

まず、今日はその県が公表した津波想定について、皆様にお示しをしながら、新しい市役所を如何するかということについて、議論の切掛けとしていただければありがたいと思っていますところ。

また、県ではこのシミュレーションの被害想定を8月頃に公表予定で、法律に基づいて、国が公表したシミュレーション、それから県が公表したシミュレーション、最終的には8月の被害想定が公表されてすべて終了ということになります。しかし、土地利用についてはそれを踏まえながら、どのような形で生活に生かしていくか、或いは避難行動に生かしていくかということについて議論を深めて行かなければならないと思っています。

今日は県が公表している内容や今後の展開について委員の皆様から様々なご意見をいただければありがたいと思っていますので、どうぞ忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。

主な質疑・意見

【委員】 今回の想定は、構造物（防護）100%全て壊れてしまうという想定ですか。

【事務局】 国の方針では「L1の高さまでしか防潮堤の高さを設定出来ません」とのことでしたので、L2という最大想定がされた場合、破堤前提という条件を含めると、何も無いとなるのは当然のこととして、今回もそのようなシミュレーションとなっています。

【委員】 浸水が、3メートル、5メートルの想定であれば、3メートルの浸水想定では新市庁舎の何階のどのレベルまで浸水するのか。5メートルではどのレベルまで浸水するのか。

2メートルの盛土をした今の計画で、地盤沈下などを諸々入れて何階のどこまで水が来るというのを示せますか？

【事務局】 新市庁舎の地盤高が日本海溝・千島海溝の浸水想定で地盤の嵩上げをする計画をしたことにより1階床面の高さが海拔で11メートルです。

県のシミュレーションの設定地盤高が令和2年度末の整備前（計画前）の9メートルで、日本海溝・千島海溝で地盤の嵩上げをするという計画した高さよりも2メートル低い状況です。その計画地盤高11メートルに対しましては、およそ3メートルの浸水があるだろうという情報を県からいただいたところです。こちらが、この新市庁舎のどの高さまで来るかというところですが、1階の天井高が4.7メートルですので1階フロアのおよそ3分の2の高さまで浸水するであろうと想定をさせていただいているところです。

【委員】 この県発表の色塗りが、国の発表に比べて解りづらい。一番知りたいのはそれぞれの浸水域の境界。メッシュは国と比べて小さいメッシュと聞いていますが、提示されたのがよく解らないのですが。

【事務局】 今回のシミュレーションは、5メートルメッシュでデータが作成されており、市町村単位で詳細に加工をするのに時間がかかっているようですが、そのデータを県から提供いただく予定としています。また、このシミュレーションに対しまして、「波の流れ方」とか、「どういう形で来ているのか」というのも知りたいということで動画の提供もお願いしているところですので、今回はご了承ください。

【委員】 市の対応方針に基づく、新市庁舎の役割と位置の検討ということでございますので、位置というところのお考えがあるのではないかなと思います。

市内の中心部、只越町のあたりは10メートルぐらいの浸水予想がされているということで、新市庁舎は1階の浸水ということですが、3.11の時もそうでしたが、五ノ橋から海側に来れない状態になったということで、分断が起きるといのは明らかだと思います。

そのときに、防災拠点としての市庁舎の役割というのが、本当に果たせるのかというのを、どこに決めるかは別としても、やはりここを慎重に議論した上で、決定しないと後世に申し訳ないことをしてしまうと思いますので、その辺を慎重に議論していただきたいと思います。

【事務局】 貴重なご意見ありがとうございます。慎重に議論してまいります。

【委員】 現在の段階で、釜石市は総合的に判断してどのように考えているのか。

3メートル、5メートルと浸水高が増えた場合に、ここでは無理だという判断なのか。災害ですから、大丈夫ということは有り得ないと思いますが、これだけ地盤を整備していますし、行政として総合的にどのようにご判断されるか、話せるのであればお聞きしたいと思いますが。

【市長】 必ずしもそういった津波が来るということではないし、また来ないとも言えない。しかし最悪のケースを考えながら、誰一人として犠牲にならない、避難の在り方を考えるべきだというのが本来の主旨。出来れば津波の来ないところに建てるべきだというのが、市民

の皆様もそう思っているだろうと思いますし、様々な意見があるのは重々承知しているところですが、総合的に考えていきますと、やはり今の天神町が一番良いのではないかと、いうところで、今までもその議論で落ち着いてきたところです。

しかしながらシミュレーションが公表された訳ですから、吟味して慎重に考えていかなければならないということを条件に付けながら、現時点では、やはり天神町が、総合的に考えれば良いのではないかと、いう考えの中で、先程、災害が発生した場合、本部機能を持てるのかどうか、或いはそういった様々なことを勘案していかなければならないと思っております。

今後、そのような一連の条件がクリア出来るのかどうかということを、庁内でも議論し、最終的には議会での議論、議員の皆様への承諾を得なければなりません。

今日、検討委員会で皆様のご意見をいただきながら尚且つ庁内でも検討し、また議会の意見をいただきながら、そしてまた、市民の皆様のご意見を取りまとめ、慎重に進めていきたいと思っております。

【事務局】 県と復興まちづくりのシミュレーション2種類、今回示した訳ですけれども、このシミュレーションの性格が違うところからご理解いただきたい。

復興のときのシミュレーションは、復興計画を作るための土地利用を中心としたシミュレーション、県のシミュレーションは避難対策等の検討に資することを目的としたというところで、大前提が違うということをまずはご理解いただきたい。その上で、今までの経緯を大事にしたいということで、天神町という部分に関してその方針を変えた訳ではございません。ただし、懸念点がありますので、その対策をどうしたら講じられるかという部分を、慎重に検討しつつ、その上で、移転しなければならないということも勿論あるかも知れませんが、現時点では、天神町で進める方がよろしいのではと総合的に思っているということです。

【委員】 前回委員会より一年ぐらい経過しておりますが、以前の議事録の中に、平面図が出来たら次回委員会を開催するとしていましたが、これが開かれていません。

しかし、この一年間で行政が事業を進めている状況で、まずは新市庁舎の住所を只越町から天神町に変更するという議決がありました。その後の議会で、建設予算案が可決されました。ここで建設に向け「建てます」と言えば建設は進んでいます。しかし、11月に市長コメントで「建設を見合わせます」ということがありました。今回の3月末の県の発表があって、ホームページには建設部長のコメント、市長のコメントがアップされています。その中で市長は、検討する中でも洪水の関連もあるので「現状が良いのでは」というような感じがとれました。今日の資料に甲子川の浸水想定が付いているのは、まさにそのことだと思います。ただ、この甲子川の浸水想定は、2日間で700ミリです。今までの数字は300ミリで、今の天神町の市庁舎の工場の現場も300ミリです。ですから、洪水に対してもまた、県が砂防の工事をしていなくても、そういうところをやはりもう一度、検討し直さなければならないと思います。

何れにせよ市長も言われたように、目配り気配りして、やはり安全な場所に機能的な市庁舎を建てて、避難所なり、対策本部なり、普段の市役所の行政の機能的な活動のできる場所。そういうことが大事。基本はそこだと思いますので、お答えあったらよろしく願います。

【事務局】 本来であればもう少し頻度高く皆様に情報提供させていただくべきところ、こちらの不手際で、そういった状況になっておりまして、申し訳ございません。

我々自身も一番良い庁舎のあり方、必要とされる庁舎、信頼される庁舎でありたいと思っております。そういった意味で、洪水ハザードマップも検討材料という意味合いで確認しながら進めたいという意図でございます。

そうした中で、次回以降、細かいデータを用いながら議論をさせていただければと思っております。

【市長】 少し言い足りなかった部分がございます追加で説明させていただきますが、東日本大震災後、土地利用のガイドラインがございまして、東日本大震災程度の津波が来た時に浸水する場所には家は建てない、人は住まない、人が住むところは高台にと、基本的な一連の考え方で進めてまいりましたが、今後、市民の方々がシミュレーションで浸水する場所に「家建てて良いのか」、「建てるのが出来るのか」等というところを整理させていただいているところです。震災時は県の資料があつて、釜石市だけではなく沿岸市町村は同じ様な土地利用をして来ましたので、今回、国、県が発表したシミュレーションが土地利用にどのように影響を及ぼすのか、県と連携しながら、市民の皆様にお伝えしなければならないと思っております。

それから、天神町に市役所を建てるということになりまして、津波が来て本部として使えない場合は別な場所に本部機能を持った建物が必要だということです。今までは小佐野コミュニティセンターでしたが老朽化しており、もし津波が発生した場合は、リスクを考え図書館の方を対策本部機能の場所にしようという事を決めたところです。ただその機能については、別途検討するという事で皆様にご意見をいただき、それぞれの懸念材料を解決しながら、皆様の理解が得られるように、進めていきたいと思っております。

いずれ津波については、いずれ来るということを徹底しながら避難場所等々考えていかなければなりません。そのためにも、具体的なメッシュ図を入手し次第、確認しながら、再度その避難場所、避難の在り方を考えながら、総合的に市役所の話を進めていかなければならないと思っております。

そして最後には市政懇談会等で市民の皆様にご説明をして、市民の皆様のご理解をいただかなければならないと考えています。

もう一つの懸念材料は資材の高騰です。ウクライナとの関連の中で更に深刻化しており非常に厳しい状況ではございますが、市民の皆様ご期待に、或いは負担にならないような形を、選択しながら進めていかなければならないということだけお話しさせていただいて、どうぞ引き続き、忌憚のないご意見いただきますよう、お願いしたいと思います。

【副市長】 本日はお忙しいなか、お集まりいただきまして、また活発な議論をいただきまして、誠にありがとうございます。

課題は山積みではございますが、よりよいまちづくりのために、市庁舎建設を真剣に考えて参りますので、引き続き皆様のご協力をお願いしたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。